

講座名 地域支え合いマップ（マップを使った支え合い作り）

概要 「支え合いマップ」を用いながら、地区の民生児童委員、福祉委員、自治会長、地区社協役員らが協力し、見守り体制の強化を図ります。見守り体制の強化、災害時の要支援者の把握、情報の継続性、地域課題や社会資源の発掘を目的としています。

所要時間 1 時間～

準備物 机、椅子、マイク、エリアごとの地図（民生児童委員毎、自治会毎等地区の実情に応じて）、色シール、プラスチック付箋、消せるマーカーなど地区の実情応じて、要支援者などを色分けてきるもの

始める前に 市社協に地図作成を依頼される場合は、地図を必要とする日の遅くとも 1 カ月前までに連絡してください。

見守りを必要とする方々などの地図上で示す色分けのルールを事前に決めておきます。
あまりたくさん分類しすぎると地図上で分かりにくくなりますので、3～5 色位の色分けが適當と思われます。

当日は、民生児童委員毎など、その地域の見守り関係者であらかじめグループ決めをしておき着席してもらいます。

項目	時間（程度）	内容
1 講義	10～20 分	地区の現状、支え合いマップの目的、進め方などについてお話しします。内容、時間とも、地区のご要望に応じて追加など可能です。
2 演習 色分けと見直し	10～15 分	地図に見守り対象となる世帯をルールに従って色分けしていきます。（ひとり暮らし高齢者や高齢者のみ世帯、その他、気がかりな世帯など） 既に色分けしてある地図を利用する場合は、確認、修正、追加などを行います。
3 演習 情報交換	10～15 分	気になる世帯を地図に載せるだけでなく、わかる範囲でその世帯の情報を話し合います。 ・交流関係 ・普段の外出 ・困りごと など

4	演習 情報交換、情報 共有	10~20 分	危険個所や災害時の避難場所や経路などの確認も行います。 現状の地域課題や、社会資源などを話し合い、地区で取り組める ことがあれば、発表します。
5	まとめ、終了	5 分	

応用

4の地域課題を話し合う時にKJ法などを用い、グループごとにまとめ発表し、出た意見を地区社協事業に反映するようにします。

色分けに使用されている主なもの

丸いタックシール →

色付け不要になった世帯には、白シールを貼って対応している地区もあります。

市社協で用意できます。



←プラスチック素材の付箋

貼り替えができます。

上記の丸シールに比べ、価格が高いのが難ですが、100円ショップで類似品が販売されているようです。



←消せるマーカー

修正しやすいように、こすると消える蛍光ペンなどを使用している地区もあります。